

---

# 終わらない夏～あの時の俺達へ～

裏切許無

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

終わらない夏〜あの時の俺達へ〜

### 【Nコード】

N3570BA

### 【作者名】

裏切許無

### 【あらすじ】

テニプリ大好きな四人が自分を殺しまでテニプリキャラに会いに行く。

トリップ小説。

終わらない夏々あの時の俺達へ 設定（前書き）

ほんの一部残酷描写がありますが、そのほかはほとんど普通です。

終わらない夏〜あの時の俺達へ〜 設定

〜設定〜

神谷 麻友佳 カミヤ マユカ  
幸村大好き女子高校生2年  
テンションの上げ下げが激しい  
青がかった黒髪黒目シヨート  
ボケ担当

天使 京子 アマツカ キョウコ  
手塚大好き女子高校生2年  
DS & 変態 & 腐女子  
黒髪黒目シヨート  
冷やし担当

日ノ瀬 久留美 ヒノセ クルミ  
日吉大好き女子高校生2年  
ぱつと見クールっぽいが気を許した奴に対しては子供  
いらんところで意地を張る  
黒髪黒目ロング一つ縛り  
ツッコミ担当

星河 勇斗 ホシカワ ユウト  
お気に入りのキャラは白石な男子高校生2

ヘタレでくすぐられるのに弱い  
甘いものが好き  
茶髪黒目男にしては長め  
弄られ担当

## 終わらない夏〜あの時の俺達へ〜 第一話

とある月の綺麗な夜。

麻「行けるよね。」

人のいない深夜の公園。

勇「行くために此処に居るんだろ！」

唯一居る四人。

久「だよねー。」

手にはナイフ。

京「まあ、どちらにしろこのつまらない世界からさよならできるし。」

このストーリーの主人公達。  
ここは、普通の世界。

超常現象なんて起きないし、幽霊もない。  
つまらない世界だ。

ここから旅立つ先は望む世界。

麻「もうそろそろ夜が明けちゃうよっ！早くしなきゃー！」

久「じゃあ、アタシは先に逝くね。」

勇「お前かよ！」

久「リーダーが先に逝かないで誰が先頭持つのさ？ま、じゃあね。  
次の世界でwww」

京「おう。」

ザクッ

久「っ！」 ドサッ

麻「キューミンやるねーwww」

勇「滝かつ！」

麻「じゃあ、次はまあね。」

ザクッ

麻「www」ドサッ

勇「笑いながら死ぬとか怖っ！」

京「ゆう。」

勇「何？」振り返る

ザクッ

勇「え？」

京「お前は逃げ出しそうだからwww」

勇「そんな心配いらねえって・・・」ドサッ

京「俺も逝くってちゃんとwww」

ザクッ

京「手塚・・・」ドサッ



ア「次のニュースです。 県××市の公園で高校生四人の集団自殺が起きました。遺書は見つかっていません。」

## 終わらない夏　あの時の俺達へ　第二話

ここはどこだろ・・・暗い・・・寒い・・・そういえば何で此処に居るんだろ・・・俺達は・・・達？

誰だ・・・？アタシと・・・分からない・・・アタシ・・・自殺して・・・

どうなったんだっけ・・・・・・ああ・・・

行かないや・・・

久「っ！！どこここ・・・あ、そっか・・・死んだんだった。あいつら何処に居るんだろ。」

スッ

久「！誰っ！？」

？「そんな警戒すんなって。」

変な人がいた。

まるで・・・DJみたいな格好をした人が。  
キャップにパーカー、短パン。後ろに影のようなものを連れている。

久「あんた誰？」

？「あー人間が”神”と呼んでいる存在・・・っていうかんじだな。」

久「・・・マジか・・・そうだ。まあとキョン、ゆうが何処にいるか知らないか？」

神「神って聞いて驚かねんだな。」

久「神の存在を信じてアタシはここに来たから・・・。」

神「だが、その三人はお前が自殺した後にすぐどこかに逃げちまつたぜ？」

久「は？」

その頃・・・

麻「んー？」

京「まあ！起きたか！」

勇「大丈夫？」

麻「あ、うん・・・うんどう？」

勇「わかんない・・・でも俺達死んだよな・・・？」

京「死後の世界・・・」

スッ

神「よう。」

京・麻・勇「!?!」

神「あー俺は神ってんだ。」

麻「やつぱり!ちゃんとできたんだ!」

神「喜ぶのは早いぜ?お前らの仲間のクルミってやつは此処には居ないからな。」

勇「は?どーゆうことだよ・・・?」

神「あいつには試練に受けてもらっている・・・これ見ろ。」

ブウン

なんかモニターが出てきた。

神「試練の最中だ。」

麻「キューミンッ!」

京「何している?」

神「試練っていつでも簡単なもんだ。まあ、絆試しって奴だな。あいつにはお前らが自殺する前に 逃げたから此処にはいないと言っている。」

麻「!？」

京「それを信じたらどうなる。」

神「このままこの世界でさまよってもらうな。だが、気づけたら・・・お前らの望み叶えてやるよ。」

久「・・・・それは本当のことか？」

神「神は嘘つかねえぜ？」

久「・・・・・・。」

神「どうした？」

久「神って死ぬのか？」

神「けがはするけど死なねえよ」

久「そうか。なら・・・それで十分だ。」

チャキ

神「何する気だ？ナイフなんかもって・・・。」

ザクッ

久「お前に喰らわせるんだよｗｗｗ」

神「ふーん・・・やるジャンｗｗｗ」

久「っ！？」

フッ

神「クリアだ。」

ブウン

久「！？」

麻「キューミンツ！！」

勇「ナイス久留美！！」

京「フッ簡単じゃないか。」



### 終わらない夏／あの時の俺達へ／ 第三話

麻「あ・・・れ？みんな中学時代の顔に・・・。」

神「もうテニプリの世界だぜ。ちなみにお前らは今は中学生の時の身体だ。」

勇「マジ？」

神「これからはこの世界で暮らしてもらうからな。」

久「上等wwwで？これからどうすればいいわけ？あ、あと、住む場所と金はどうなってるの？」

神「い、一度に聞き過ぎ・・・。」

京「いいから答えろ。」

神「（俺、神はずなんだけど・・・）ま、まあ金も住居も心配ねえ。金はこのカードを使え。無制限だから。あと、住む場所だが、行く学校の近くにマンションの部屋を取ってある。まあ、ボロじゃないから安心しろ。それと・・・一人一人にルームシェアが居るかな。仲良くしろや。」

全「ルームシェア！？」

神「あいつらもそろそろ家に着いただろうからお前等も転送するぞ。」



麻「え！？ちよつと待ってよ！！！！」

神「問答無用www」

シュン

神「仕事完了」

終わらない夏〜あの時の俺達へ〜 第三話 ルームシェア 麻友佳の場合

麻「ふうー・・・マンションってここか。つかデカー・・・ここが何県なのかも不明なんですが。」

と、愚痴を言いながらエレベーターに乗り込む

？「そのエレベーター待った!!」

麻「うおう!!」

？「ふうーセーフセーフwwwすまんのう驚かせたか。」

麻「（仁王君仁王君仁王君仁王君仁王君仁王君・・・!）」

？「ああ、自己紹介が遅れとったの。仁王雅治じゃ。今日からこのマンションの住人じゃ。ヨロシクの〜」

麻「神谷 麻友佳です。よ、よろしくお願いしますっ!!!!」（キラキラ）

雅「おう!で何階じゃ?」

麻「え?ああ・・・（ゴソゴソ）」

ポケットをあさると神からもらった住所のメモが入っていた!いつももらったんだこれ。っていゆうかここ神奈川だったんだ。20階・・・

麻「えっと、20階・・・です。（ここは敬語にすべきなのか!?!）  
」

雅「おー偶然同じ階じゃ  
」

麻「（仁王君この階なんだ!ルームシェアが誰だとしても同じ階に  
仁王君がいると考えると苦じゃないぜ!?!）  
」

今のまあはハイテンションなのだ!?!

ピン

雅「着いた着いた・・・えーと2008号室・・・っと  
」

麻「（まあも部屋探そう・・・2008号室・・・?2008号  
室!?!）  
」

ちよつと待て?仁王くんがつぶやいた部屋番号と同じだゾ  
ってつけてる場合じゃなくて!ルームシェアって仁王君!?

雅「お、ここじゃここじゃ  
」

麻「変なこと聞かかもしれませんが仁王さん。  
」

雅「?雅治でよかよ?  
」

麻「（キターーーーーー!?!じゃなくて!）ルームシェアす  
るんですか?  
」

雅「?・・・何で分かったんじゃ?」

麻「えっと・・・まあルームシェアするんです。2008号室で・・・」

雅「(キョトン)」

麻「(ツ!)」

説明しよう!雅治のキョトン顔はまあに大ダメージを与えたのである!!

可愛いから!!!

雅「ハッ!お、お前さんだったんか、こんな高いマンションで金はらわんでええからルームシェアがほしいなんて言ってる金持ちは・・・」

麻「(それに食い付いて来ちゃったんだ・・・っていうか高いんだ・・・。)」

雅「ま、改めてヨロシクのー神谷」

麻「、、、よ、よそよそしいのまあだめなんで名前でかまいませんよー?」

雅「?じゃあその敬語も直せんかの?俺も堅っ苦しいのは苦手での・・・?」

麻「わかった!!!(よっしゃ!!!)」

ポケ担当！神谷 麻友佳はまっさはるとルームシェアです！！！！

終わらない夏〜あの時の俺達へ〜 第三話 ルームシェア 京子の場合

京「ん？畳？」

？「ああ、起きたか。」

京「真田！？・・・ルームシェア？」

真「！？ああ、そうだが・・・。」

京「うつそ！マジ！！」

ガバッ

真「な！？た、たるんどる！！」

京「（生たるんどる！！（感動）」

真「いいかげん、離してくれぬか？」

京「んーゴメンゴメン」

真「はあ、知ってると思うが真田弦一郎だ。よろしく頼む。」

京「んー。天使 京子。名前でいいよ？よろしくvv」

真「あ、ああ。」

京「ちなみにここは何処？」

真「俺の家だ。居候が来るとは聞いていたが……まさか女子とは・  
・。。」

京「あの一？」

真「はっ！す、すまない……」

なんなんだあこの気まずい空気は！！！

ピロリン

京「あ、ケータイ。」

カパッ

From・まあ

—————

まあのところは仁王君  
だったVV

キヨンのところは誰だった  
???

京「まあは仁王か……俺んとは真田だった。っと……」

真「??」

京「何でもない。あ、たぶん立海に通うからそのときはよろしく」

真「ああ、分かった。」

冷やし担当！！！天使 京子は真田の家に居候！！！！



終わらない夏〜あの時の俺達へ〜 第三話 ルームシェア 久留美の場合

久「んー・・・何処だー？」

？「あの・・・日ノ瀬 久留美さん・・・ですか？」

久「ん？そ、そうだけど・・・って裕太くん！？」

裕「はっ、はい！！不二裕太です。」

久「あー・・・もしかして、ルームシェアって裕太くん？」

裕「はいっ！！」

久「あと、同じ年だから敬語はいらないよ・・・？」

裕「えっ！？何だ、年上とか変な人とかだったらどうしようかと思  
った・・・。」

久「知っての通り日ノ瀬 久留美。よろしく」

裕「ああ、よろしく。」

久「で、家の場所どこだか分かる？っていうか・・・よくアタシっ  
て分かったね・・・？」

裕「いや・・・家の場所が分からなくて、じゃあまず日ノ瀬さん  
探そうかなって。黒髪のロングでポニテって聞いてたからあの人か  
なーってなつてさ。今に至る。」

久「つまりどこだか分からない。」

裕「ああ。」

久「んー……。」

神「おい、何だよ迷ってんのか？」

久「あーっ！！いた！家どこ！？」

神「わりーわりーwww」

久「わりーじゃないよ！！何でもらったメモが夕飯の買い出しメモなんだよっ！？行けるか！！」

裕「（買い出し……？）」

神「こつちが地図だ。じゃなww」

久「コノヤロウ！！」

裕「行こうか。」

久「んー。」

神は買い出しに行くのでしょうか。  
っていうか神って飯食べんの？  
そんなこと考えている場合じゃない！  
早くしないと日が沈んじゃうゾ

久「こつち？」

裕「右じゃない！左！！！」

久「ああ、そつか！」

裕「（方向音痴？これ一人だったら完全に迷子だな・・・。）」

久「次は左？」

裕「右・・・（泣）」

久「んー？」

無事たどり着けんのか！？

久「あれ、裕太くんの通ってるルドルフって寮制だったよね？なんで、ルームシェア？？」

裕「寮もなにげに金がかかるんだよ。んで、親がルームシェアの広告見て勝手に決めた。」

久「（神、募集したんだ・・・。）」

裕「まあ、よろしくな（爽）」

久「グハッ！！」

裕「日ノ瀬！？」

久「な、何でもない・・・（勇斗もこのくらい爽やかだったらいいのに・・・。」

裕「???」

久「あ、あと日ノ瀬ってなんかよそよそしいから名前でお願い。」

裕「あ、分かった・・・。と、ついた・・・って一軒家・・・?」

久「マンションちゃうやん・・・。」

ツッコミ担当!! 日ノ瀬 久留美は裕太くんとルームシェア!!!

そして、ちゃっかり皆、名前呼びに成功しているwww

勇「つと。どこだこいつ。」

カサッ

勇「ん？メモ・・・地図かな？」

現在地が記されているメモを発見！  
この地図通りに歩いてみることにした！

勇「ここか・・・ん？」

ここで勇斗は何かを発見した！

？「（キヨロキヨロ）」

勇「（財前じゃねあれ・・・？）」

？「！！！」

タッタッタッ

勇「（え？こつちに来る？）」

光「なあ、あんた星河勇斗って人知らんか？」

勇「え？俺だけど……。」

光「……なんや、ルームシェアって言うからなんかと思ったら普通の女子やん。」

勇「！財前がルームシェアなん！？」

光「……名前知つとってなんでルームシェアって知らんのやお前。」

勇「え？ちよつとな……。」

勇斗早速ピンチ！！

光「まあ、ええわ……。知ってると思うけど、俺は財前光や。まあ、よろしゅう。」

勇「あ、ほ、星河勇斗。ヨロシク。」

光「勇斗でええよな？なあ、部屋の番号知らんか？」

勇「え？」

ガサゴソ

勇「えつと……。たぶん4014号室じゃないかな？書いてある……。」

光「そうか・・・行くで。」

勇「あ、うん!!」

光「思ったんやけど・・・」

勇「ん？」

光「ずいぶん男っぽい服着とるな。」

勇「え？」

光「え？」

勇「俺、男なんだけど・・・。」

光「マジ?・・・写メ撮ってええか？」

勇「ダメにきまってんじゃない!!」

弄られ担当! 星河 勇斗は財前とルームシェアです!!!

終わらない夏／あの時の俺達へ／ 第四話

2008号室

雅「ところで・・・お前さん何処の学校に行くんじゃ？見たところ中2じゃろ？」

麻「うーん・・・多分立海？・・・まだ転入手続きとかいろいろしてないみたいだからわかんない。」

雅「そうか・・・。」

麻「（立海じゃなかったらあの神ボコる。）」

雅「なんかさっきだってるんじゃが・・・（困）」

麻「気にすんな」

その日の夜

麻「（今思えばあんなに会いたいつて思ってた人に会ってよく落ち着いてられるなあ・・・。）」

神「いよう。」

麻「あ、神。」



神「学校のことで話があるんな。」

麻「立海だろうな。立海じゃなかったら殺すぞ。」

神「神は死なねえんだぞ・・・」

麻「精神的に殺す。」

まったく、怖い中学生がいたもんだ・・・。

神「まあ、立海なんだけどな。明日からいけよ？（この辺じゃそこしかねえし。）」

麻「だよねー じゃなかったら神に何してたかわからないよーww  
」

神「（wwwじゃねえよ・・・。）・・・じゃあ、他の奴のところに行かなきゃなんねえし。」

麻「ねえ、いろいろとめんどーだからさ、神はお父さん設定でいい？」

神「ぶっ！！んだよそれ・・・。」

麻「だって人と神が一緒にいるって不自然じゃんwww（お前を困らせたいんだよ。）」

神「・・・まあ・・・いいか・・・。それからそのうち合宿をやるみたいだからな。」

麻「マジ！？ヤッタ！！じゃあね。」

スッ

4014号室

神「はいはい、神参上つと……誰もいねえし。」

二人は買い物に出かけていた！！

神、失敗

神「……待つか。」

二十分後

神「来ねえ……。」

四十分後

神「あいつら何処ほつつき歩いてんだ……。」

勇「（あ、神……財前いるしスルーしよ。）財前君、今日はぜんざいとケーキどっち食べる？」

光「（あの人をスルーか。）あー、どっちもぜんざいで（キラッ）」

勇「そのどつちかのぜんざいは俺のか？（怒）」

光「じょーだん。ぜんざいは明日に残しとく。」

勇「じゃあ今日は紅茶煎れるね。」

光「（ことごとく女つばいな。）」

神「（スッ、スルー！？また出直しマース……。）」

スッ

二人「（消えた……。！？）」

その後勇斗の部屋の机に神からの置き手紙がありました。

学校は四天宝寺だそうです。

真田邸

神「もうあいつ相手にしたくねえ……。っとおい！」

京「おー神。どした。」

神「お前の通う学校は立海な。麻友佳と一緒にな。クローゼットの中に制服あるから。それと、そのうち合宿あるから。」

京「なんで！？いつ入れた！？つか、まあと一緒に！？うれしいけどツツコミどころいろいろだな！！」

神「神の力www」

京「んーまあ分かった・・・なーウチ等ってなんか特殊設定とか無いの？」

神「あー・・・そのうちじゃ！」

京「あんの！？」

スッ

京「逃げられた・・・。」

久留美の家（裕太込み）

神「じゃまするぜー・・・。」

久「あ、神。」

神「父さんだ。」

久「は？（遠い目）」

神「なんでもねえ（そんな目で見られるのは分かってました。ただ出来心が・・・ね。）」

久「用は何？」

神「学校についてだ。お前氷帝に通うことになってるから。」

久「あ、ルドルフじゃないんだ。」

神「ルドルフに行きてえの？」

久「いや、別に。氷帝の方がいい。ただみんな同じ学校の人とルームシェアだからさちよつとね。ルドルフか・・・？ってな感じなわけだよ。まあ、氷帝ならいいよ。（氷帝ルームシェアするほど金に困ってなさそうだし・・・穴戸以外。）」

神「そうか。明日から学校だからな。あとそのうち合宿が（以下省略）」

久「分かったー・・・じゃあねさよならバイバイ神様。」

神「俺まだ何も言ってない。ま・・・じゃあな（泣）」

スッ

こうして、神の苦勞の夜は終わりました。  
お疲れーッス！ー！！

終わらない夏　あの時の俺達へ　第五話（前書き）

立海に行こう！！

終わらない夏〜あの時の俺達へ〜 第五話

麻「今日から立海だーっ！！！！」

雅「元気じゃのー・・・。」

麻「だってずっと行きたかったんだよ！！！！」

雅「ほー（受け流す）」

麻「ゝ」

京「立海 立海」

弦「（ご機嫌だな・・・。）」

京「（立海の制服・・・ハッ！！コスプレ・・・？）」

弦「うむ！ではいくぞ！！」

京「ういーっす」

立海大附属

麻「キョーン！！」



京「まーあ さつすが神似合うねえwww」

麻「えへ」

雅「まあ、誰じゃ？友達？」

麻「うんwww友達のキヨン」

弦「む？天使、誰だ？」

京「んー・・・友達（ ）のまあ 本名は神谷麻友佳ね。」

麻「じゃあ職員室行くからバイバイまつさー」

京「じゃあ俺もいくから」

弦「俺などというのはやめると言っているだろう！！たるんどる！！」

京「じゃーねー」

雅「真田もたいへんじゃのう。」

弦「お前のところもか？」

雅「まあ・・・いろいろとな。（いちいちボケに対応するのが疲れるぜヨ・・・。）」

教室（キヨンとまあはとてもたのしそうです。）

2 - D 組 W W W

先「転校生が来るゾー・・・入ってこい。」

麻「（先生やる気無っ！！）神谷麻友佳です。」

京「天使京子です。」

先「（それだけか？）あー・・・窓側の席2つと・・・切原の隣があいてるな。どれでも好きな席行け。」

女「（どうせ赤也君の隣に行くんでしょ！！ずっるい・・・。）」

スタスタ

京「（そんなすぐテニス部の奴に近づいたら目えつけられるにきまつてるし W W W）」

ガタツ 窓側の席に座る。

麻「（そんなバカじゃないし W W W）」

ガタツ キヨンの前の席に座る。

女「（うそっ！？）」

京・麻「（ｗｗｗ）」

赤「（なんだあいつら・・・。）」

京「（赤也が・・・ｗｗｗ）」

麻「（びつみよくな顔してるｗｗｗ）」

京「（写メりてえｗｗｗ）」

この後二人は普通に授業を受けましたｗｗｗ

その日の放課後

赤「で、その転校生。俺には目もくれず窓側の席に座ったんッスよ！？」

幸「赤也、君は相当自分に自信があるようだねｗｗｗ」

赤「うゝでもおかしいッス！！」

柳「調べてみる価値はありそうだな。」

弦「（それはもしかや天使では・・・。）」

幸「天使って？」

弦「なっ！？」

赤「あーっそれッス！！天使とかいう名字でした！！」

幸「真田？何か知ってるみたいだけど？」

弦「む・・・いまその天使とやらは俺の家に居候してるのだ。」

柳「ふむ・・・知り合いなのか？」

弦「いや・・・お祖父さまの知り合いの孫だそうだが・・・いままで天使という知り合いは聞いたことがないのだ。お祖父さまは納得しているが・・・。」

幸「ふうん・・・ねえ明日部活に連れてきてよwww」

弦「なっ！どうするのだ！？」

柳「いや、どうもしないと思うが・・・。」

弦「・・・。」

幸「あわよくば、今度の合宿で臨時マネでもむやって貰おうかなwwwで、連れてくるよね。」

雅「なに話しとるんじゃ？あと、真田、騒ぎすぎじゃ。」

弦「・・・スマン・・・。」

赤「じつは・・・（以下省略）」

雅「ほう・・・ｗｗｗｗ」

幸「！・・・ｗｗｗｗねえ仁王？ちよつといいかな？」

雅「！？ちよ、何するぜヨ！！つて、ああっ！ちよつ、ウィツグ取れるっ！」

幸「行こうカーｗｗｗｗ」

部室裏

雅「で？何の用ぜヨ。」

幸「連れてくるよね？」

雅「誰をぜヨ・・・。」

幸「連れてくるよね」

雅「・・・ハイ（泣）」

赤「幸村ぶちよーどうしんだろ・・・。」

柳「・・・帰ってきたようだな。」

幸「」

雅「（泣）」

赤「え！？ちよつ、仁王先輩！？どうしたんツスカ!？」

雅「魔・・・グハッ!！」

赤「仁王先輩!?!仁王せんぱーーいつ!?!?!」

ひよい

雅「まあ、冗談じゃが。」

赤「（ガクッ）」

次の日の部活（朝）最後の授業までは・・・まあ・・・気にすんな  
っ）

麻「え？なにになに？どこ行くの？」

雅「いいからいいから」

京「って俺もなんだ・・・。」

雅「幸村く連れてきたぜヨ・・・。」

幸「ごくろう」

麻「（ポカーン）」

京「ゆ・・・ゆき・・・む・・・ら？」

幸「ん？」

京「（耳塞ぐ）」

麻「うつわあああああああああああああああああああああ  
ああっ！！！！」

幸・赤・柳「（キーン）」

麻「えっ！？なにこのドッキリ！？やばいなんだろう！テンション  
があり得ないくらいおかしい！！え？夢？これ夢なんですかー！？  
だれか説明プリーズ！？」

雅「ま、まあ・・・おちつきんしゃい・・・。」

麻「何で？これがおちついていられるかーっ！！もーやだなーまっ  
さーｗｗｗｗ」

ガッン！！

雅「！？」

バタッ

赤「（青ざめる）仁王先輩がまた死んだーっ！！」

幸「こ、これは・・・（苦笑い）」

柳「すさまじいな・・・。」

幸「プッ、くくくっ・・・。」

麻「？」

幸「アッハハハハｗｗｗｗよっ、予想外だよｗｗｗｗ仁王なぐるとかｗｗｗｗなにげに大ダメージだしｗｗｗｗアハハハッ（大爆笑）」

京「なんか気に入られたッぽいゾ？まあ。」

麻「マジで！？」

幸「ねえ、今度俺たち合宿があるんだけどマネージャーとして来ない？合宿だけだからさーｗｗｗｗ」

幸村君はまだ笑っているようです。

どんだけ仁王が死んだのがツボにはまったのでしょうか・・・。

麻「行かせて頂きます。」

京「ミラクルｗｗｗｗ赤也を無視ったことで合宿のマネ権ゲットとは・・・。」



幸「君も来る？」

京「もちろん！」

こうして、へんなミラクルで合宿に参加できることになったまあと  
キョンなのです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3570ba/>

---

終わらない夏～あの時の俺達へ～

2012年1月14日19時45分発行